平成２１年（行コ）第２１３号　公金支出差止（住民訴訟）請求控訴事件
控 訴 人　深　　澤　　洋　　子　外３７名
被控訴人　東 京 都 水 道 局 長　外４名

証拠説明書

平成２３年９月２９日

東京高等裁判所第５民事部　御中

控訴人ら訴訟代理人
弁護士　　只　　野　　靖

甲号証	標目（原本・写しの別）		作成年月日	作成者	立証趣旨
甲B161の1	意見書	原	平成23年9月7日	新潟大学名誉教授（河川工学）大熊孝	会等風を水実㎥とそ明第9の濫いる員討台算洪、て流氾違す委検ン計大り、ろがいと。上の間明学価一出最あるつこ島この説築評リ流るで量17,000㎥/秒流差て由な八が多下建水ス水け/秒量がいにい斗、くを学高カ洪お㎥大なし理いはる、低工本年のに最きとのていりの本基22川点21,100㎥る大「下し料てある量土ル和根地れ「た低は資れで流議モ、る斗値とだしのと足さ撰クとリおるデ昭利島はさにしのと足さ撰クとリおる・会出はよ八定たい確流るの推はピいカ点で衛流でに、推れあてクず会が定、な年地度学川会雨い、の流のて一論科量推りで22島程本河科豪な量にとめ改ピに分濫のあの和斗/秒日・分の行流際/秒をの確回氾量がも昭八㎥等雨は15,000台風の豪雨による実績の流量と。

甲B 161の2	日本学術会議・土木工学・建築・河川・流出モデル基本検討委員会第9回資料 「昭和22年大洪水氾濫図（原図）」を相当し、捕捉された八斗島上流域の氾濫図	原	平成23年 6月	国土交通省	大熊意見書（甲Ｂ１６１の１）の図3 国土交通省が、日本学術会議・土木工学高水工学委員会等分科会第9回に捕捉資料として提出した図面 国土交通省が、カスリーン台風の八斗島上流域の浸水被害の状況を推定したもの。
甲B 161の3	第9回分科会捕捉資料の氾濫図 昭和45年作成の氾濫図を基に作成した捕捉との図	原	平成23年 9月	原告代理人 弁護士 只野靖	大熊意見書（甲Ｂ１６１の１）の図7 甲１６１の２を、５万分の１の地形図に縮尺を考慮して青色で転写し、併せて利根川上流域における昭和２２年９月洪水（カスリン台風）の実態と解析した甲Ｂ５８の図８－２７）を赤色で転写したもの。
甲B 161の4	昭和二十二年九月十五日キャサリン台風の記録 群馬県佐波郡芝根村五料地区	写	昭和62年 11月30日 発行	大沢素治 編集	大熊意見書（甲Ｂ１６１の１）の図6 出典元 群馬県佐波郡芝根村五料地区在住の大沢素治氏の編集にかかる、カスリーン台風の記録。 玉村町から芝根村にかけての実際の氾濫は、水深が3mに達するのは、烏川沿いの一部の地域であり、ほとんどが床下浸水程度であること。 図３（甲161の2）では、玉村町のほとんどが浸水したことになっているが、図6では玉村町の半分以下しか浸水していないこと。